

2014 年御嶽山噴火における全国版と地域版の新聞報道内容の比較研究

山梨大学 学生会員 ○高井 彬名

山梨大学 地域防災・マネジメント研究センター 正会員 秦 康範

1. はじめに

2014 年、御嶽山が噴火し戦後最大の犠牲者を出した。長野県観光統計¹⁾によれば、木曽地域の延利用者数は、2013 年には 290 万 2 千人であったが、2018 年には 216 万 4 千人と噴火から 5 年が経過した今日でも依然として噴火前の水準に戻っていない。

木曽地域の観光客は、愛知県等の県外からが主である。一般的に全国新聞の全国版と地域版では、報道内容に大きな違いが存在する。観光客が回復しない要因の 1 つとして、新聞報道の違いが、御嶽山ならびにその周辺地域に対して、観光を敬遠する印象を与えている可能性があるのではないかと考えた。本研究では、そのための基礎的な検討として、御嶽山に関する新聞報道の内容を収集・分析し、全国版と地域版の新聞報道の量と内容の違いについて考察する。

なお、調査にあたって、以下の仮説を検討した。

- ・ 全国版においては、噴火の被害に関して大きく取り上げられ、地域の復旧復興に関する報道は少ない。
- ・ 地域版においては、御嶽山に関する記事の量が多いだけでなく、地域に密着した報道が行われており、噴火だけでなく御嶽山に関する多様な報道が行われている。

2. 研究方法

(1) 新聞データベース

全国紙である朝日新聞のデジタルデータベース聞蔵Ⅱを使用した。聞蔵Ⅱでは、各記事は全国版と地域版が区別されているため、同じキーワードで抽出された記事に対して全国版と地域版の比較が可能である。本研究では、地域版として御嶽山噴火の被害が大きかった長野県と御嶽山に隣接している岐阜県、全国版のそれぞれを比較することとする。

(2) 検索キーワード、対象期間

検索キーワードは「御嶽山」であり、検索期間は 2015 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日までである。2014 年 9 月 27 日に噴火し、2014 年の報道件数が非常に多いため、2015 年以降の記事を研究対象とした。

(3) 形態素解析

形態素解析とは、文を言語上の最小単位である形態素に分割し、それぞれの品詞や変化などを割り出すことである。形態素解析のフリーソフトウェアとして KH-Coder²⁾を用いた。

3. 研究結果

図-1 は、「御嶽山」を含む記事の各年（1 月 1 日から 12 月 31 日）の記事件数を、長野県版と岐阜県版、全国版を比較したものである。

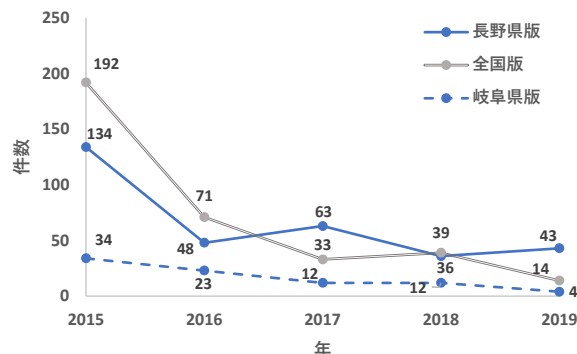


図-1 年間新聞記事件数の推移

二重線は全国版、直線は長野県版、破線は岐阜県版の件数である。総件数は年々減少しているが、長野県版はある程度の報道件数を維持している。また、2019 年には総件数 94 件に対して 43 件が長野県版であり、御嶽山に関する新聞記事のおよそ半分が長野県版であった。形態素解析の結果を表-1～表-3 に示す。

形態素解析を行った結果、全国版では「県境」という言葉が上位にあり、地域版とは違い、「長野」「岐阜」

表-1 形態素解析(全国版)

	1	2	3	4	5
名詞	山頂	レベル	火山	県境	写真
サ変名詞	噴火	登山	避難	規制	警戒
	6	7	8	9	10
名詞	災害	活火山	火口	外国	行方
サ変名詞	ガイド	計画	説明	観光	生還

表-2 形態素解析(長野県版)

	1	2	3	4	5
名詞	山頂	災害	写真	火山	遺族
サ変名詞	登山	噴火	説明	規制	解除
	6	7	8	9	10
名詞	慰霊	レベル	地域	ライチョウ	行方
サ変名詞	避難	計画	観光	警戒	防災

表-3 形態素解析(岐阜県版)

	1	2	3	4	5
名詞	選手	生徒	山頂	自転車	障害
サ変名詞	解禁	活動	体験	登山	営業
	6	7	8	9	10
名詞	肥料	ツツジ	火山	キャンプ	レンゲ
サ変名詞	競技	協議	交流	合宿	乗車

の「県境」に位置することを示していた。また、長野県版ではライチョウがよく使われている。長野県版に着目すると、御嶽山噴火に関しては全国版と同じ内容がみられたが、地元の児童が御嶽山に登った記事など、全国版では取り上げられない記事もあった。しかし、御嶽山の噴火災害の記事が多く、全体として全国版と似た傾向にある。

岐阜県版に関して、全国版や長野県版とは違った傾向を示した。岐阜県版の上位には、長野県版や全国版でみられる「噴火」「規制」「登山」といった単語がなく、「選手」「生徒」「牛」が最も多く抽出された単語であり、地元の話題が報道されていることがわかる。また、被害の大きかった長野県との報道内容・量の違いも顕著に示された。

次に、2015年から2019年までの月別の長野県版・岐阜県版・全国版の新聞件数の推移を図-2に示す。全国版と長野県版の新聞に着目すると、6月と9月の件数が多いことがわかる。6月は山開き、9月は御嶽山噴火の周年に関する記事が多くみられた。

報道内容に関して、記事数の比較的少ない2018年と2019年に関して調べた。噴火時期でない月は、御嶽山噴火に直接関係する記事が少なく、御嶽山噴火をふまえた防災等に関する記事が多かった。具体的には、避難計画書の作成や、噴火を想定した訓練の話題である。また、2018年1月に草津白根山が噴火

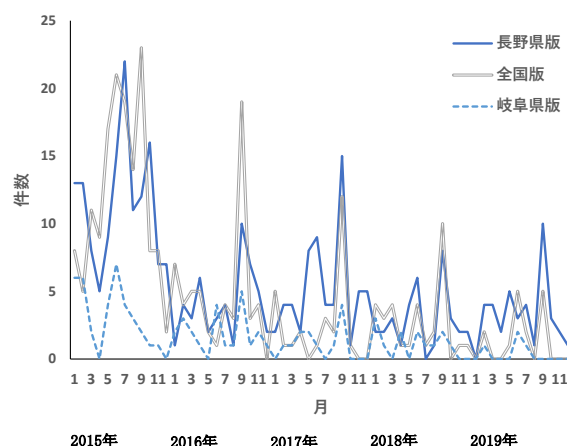


図-2 新聞件数の推移

した際に、記事に「御嶽山」が使われていることから、1月の新聞件数が増加している。

御嶽山の噴火により、火山防災の意識が高まり、御嶽山の噴火に直接関係していなくても新聞に取り上げられることから、継続的に件数が存在する。

4. まとめ

「御嶽山」をキーワードにし、2015年から2019年までの新聞記事に関して分析を行った。新聞件数は年々減少しており、全国版は長野県版と比べて大幅に減少していることが示された。毎年周年の9月には、記事数が増える傾向が見られた。一方で、「御嶽山」が使用される記事は、全国版においてもほぼ毎月存在していることがわかった。

2019年に着目して行った形態素解析から、全国版と長野県の記事において、上位に抽出される言葉はほとんど同じであったが、岐阜県版では御嶽山噴火よりも地元に関連した話題が多かった。

参考文献

- 1) 長野県観光地利用者統計調査
<https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/sangyo/kanko/toukei/riyousya.html>
- 2) KH-Coder：計量テキスト分析・テキストマイニングのためのフリーソフトウェア (<https://kncoder.net/>)